

2010年の卒業・入門後、晴れて「二つ目」に昇進した落語家で中央大学OGの林家つる子さんが奮闘中だ。

寄席をはじめ、ホール落語に出演、自らの勉強会も立ち上げた。研さんを積んだ伝統の古典落語はもちろん、新作落語にも挑戦して、活躍の場を広げている。

見習い、前座と続いた5年2カ月の修業を終えた昨秋の昇進直後、噺を終えると自ら座布団を返す前座仕事をして周囲を慌てさせた。が、いまでは高座姿も板に付き、醸し出す雰囲気は春の花がいつぱいに咲いたよう。芸の品の良さも評判だ。

二つ目とは落語家として一人前と認められた称号である。高座で羽織が着られるようになり、高座名を客席に示す「めぐり」と呼ばれる名札にも登場する。大相撲では十両に相当するようで、噺家も力士もこの時点の昇進を心底喜ぶ。

なぜ、つる子と名付けられたのか。出身地・群馬県を地図で見ると、鶴がくちばしを茨城方面へ向け、羽を広げたように見える。地元の「上毛かるた」には『つる舞う形の群馬県』とある。

「師匠、それでつる子なんですね」。「いや、つるっとしているからだよ」と林家正蔵師匠の返答は想定外だった。伝え聞いたつる子さんの母親は「ぬるっとしていると見られるよりよっぽどいい」。噺のまくらで、楽しいやり取りに笑っているうちに落語の幕が開く。

女性落語家は最高位の真打ちと二つ目で計13人と少数だ(落語協会)。女性初の真打ち登場は平成に入ってから平成5年(1993年)と歴史も浅い。

職人がたんかを切る噺を若い女性がどう演じるか。野太い声は出せない。女性ならではの課題は多いだろうが、腕前と年季にかけて、客席をうならせたい。

「芸人になったんです。華やかでいたい」。本誌2012年冬号表紙を飾ったときの抱負が、いま高座で表現されている。

華やかなつる子さんに、ご注目。

(編集長 久保田茂信)

◎取材協力

学事部	ボランティアセンター	キャリアセンター
各学部事務室	中央図書館	校友会
大学院事務室	国際センター	学員会 ほか
学生部	入学センター	

◎写真提供&協力

「中大スポーツ」新聞部

◎写真提供

A F P 通信

◎学生記者

石崎春日子	小野理世	野村睦	湊和貴
田中未来	西村卓真	山下崑	今村直道
福田紗友里	谷藤美佳	菅野誠一郎	片桐将吾
佐伯綾香	高瀬杏菜	代田知之	長塚優佳
山口萌絵	中村亮士	猪瀬春奈	内藤伊音
竹田響	高崎莉世	山田俊輔	佐藤檀子
澤田紫門	増田ゆり	魚住剛司	(順不同)

◎制作協力

産経新聞社 産経編集センター

学生記者になりませんか?

『HAKUMON Chuo』は中大生が取材・編集する大学広報誌です。現在、学部在学生在を対象に学生記者を募集しています。

- 元新聞記者のプロや先輩の学生記者に、取材方法・原稿の書き方をはじめ添削指導を受けることができます。将来どんなキャリアを目指すにも文章力が重要です!
- 取材を通して、さまざまな人に出会うことができます。出会いの数ほど思い出ができることでしょう。
- 記者活動を通してコミュニケーション能力など「社会人基礎力」を身につけることができます。

お申し込み・お問い合わせ

中央大学広報室『HAKUMON Chuo』 編集担当：久保田茂信
Phone：042-674-2048 (直通) E-mail：hc@tamajs.chuo-u.ac.jp

NEXT ISSUE

4月2日発行予定

『HAKUMON Chuo』2016 春号 No.246

学生記者が総力取材! **お楽しみに!**



2016 早春号 NO.245

2016年(平成28年)3月25日発行

発行：中央大学広報室
〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

メールアドレス：hc@tamajs.chuo-u.ac.jp
編集担当：『HAKUMON Chuo』 ☎042-674-2048